

統合認証基盤と Single Sign-On 連携

ネットワーク認証とシングルサインオンの連携で利用者の利便性を向上

佐賀大学

複数の Web サービスを 1 つの ID とパスワードで利用できる統合認証基盤を持つ本学が、平成 22 年 3 月、Shibboleth によるシングルサインオンを導入した。学術認証フェデレーションとの連携と合わせ、利用者の利便性向上に大きく貢献している。

課題

本学では、大学として提供する Web サービスを共通の ID とパスワードで利用できる環境にするために平成 10 年からシステムの構築に着手し、平成 14 年には利用者情報を管理する統合認証システムを本格的に導入した。これによって、一組の ID とパスワードですべての学内サービスを利用できるようになった。しかし、システムを利用するたびに認証情報を入力するという手間は変わらず、認証を一度で完了できるシングルサインオン(SSO)の導入を検討していた。

解決策

本学で持ち込み PC や公開端末を学内のネットワークに接続する時、まず最初に行うのがネットワーク利用者認証システム「Opengate」による認証である。この Opengate は佐賀大学の学生や教職員の他、学外者の一時利用にも対応しており、利用頻度・認知度がもっとも高いサービスである。認証システムの SSO 化を検討したとき、本学ではこの Opengate による認証と SSO を連携させることで、以後、接続する Web サービスの認証はすべて自動処理されるようにシステムを構築した。SSO の認証基盤には学術認証フェデレーション(学認)が採用した Shibboleth を導入しており、学認との認証連携を実現している。

本学が運用する Opengate は 10 年以上前から学内で独自に構築してきたオリジナルの認証システムであり、SSO 化に必要な Shibboleth 対応を、特に混乱もなくスムーズに進めることができた。多くの指摘があるように Shibboleth と Web サービスの親和性の高さを実感している。実際に開発してきた立場からこの技術を評するならば、サーバの仕様やプロトコ

ルに細かな制約を求めないシンプルな部分に Shibboleth のメリットを見ることができる。しかも単なる SSO だけでなく、認証した個人が教職員か学生かを区別し、学生であれば学年や学科といった属性情報の設定も可能で、認証後に表示されるポータル画面に、属性情報から認証した利用者が使えるサービスだけをリスト化して掲示することもできる。

結果

Opengate の SSO 対応によって、利用者の利便性はさらに向上したといえよう。また、学認との連携により、学外からも電子ジャーナルサービスを利用できるようになり、学生や教職員らの利用が増えつつある。その他、学認に参加している他大学のサービスの活用も可能になっている。本学が提供する Opengate も学認に参加している組織であれば利用でき、本学の無線 LAN サービスを介してネットワークに接続できる。

従来、コンテンツを構築する場合、サービス部分に加えて認証部分もセットで開発する必要があった。しかし、今回の SSO 導入を機に認証機構部分が独立したため、今後開発する Web サービスは認証機能を実装する必要がなくなっている。そのため Web サービスの構築がより簡単になり、新たなアプローチやサービスの発見にも期待が高まっている。今後は、今回導入した SSO の使い勝手の向上に取り組み、新たな可能性を開拓していく予定である。

(佐賀大学 大学院工学系研究科 渡辺 健次)

